【樹木の部屋】

モクゲンジ（ムクロジ科モクゲンジ属　Koelreuteria paniculata）

和名：モクゲンジ(木患子)　別名：センダンバノボダイジュ

英名：Golden-rain tree 、Varnish tree

ムクロジ目　落葉性高木　　原産地：中国

花言葉：賢者、高尚　　花の色：黄

← 写真-１　モクゲンジの花

撮影日：2013 年 7 月 13 日
撮影場所：ヴォルツァーノ
(北イタリア)にて
撮影者：M　さん

← 写真-２　モクゲンジの葉

撮影日：2013 年 7 月 13 日
撮影場所：ヴォルツァーノ
(北イタリア)にて
撮影者：M　さん

← 写真-３　モクゲンジの幹

撮影日：2013 年 7 月 13 日
撮影場所：ヴォルツァーノ(北イタリア)にて
撮影者：M　さん

→ 写真-４　モクゲンジの実

撮影日：2013 年 7 月 13 日
撮影場所：ヴォルツァーノ
(北イタリア)にて
撮影者：M　さん

メインストリートに街路樹として植えられていました。風船のような実？が珍しく、この木なんの木？と思いつつ、パッチリ。一見、ハリエンジュのような葉と花。似ているようで・・・。帰国後、調べてみるとモクゲンジとの結論。クロモジの仲間だそうです。風船様の物体は？実でした。

日本では本州から九州の日本海側の海岸に分布。これが自然分布か栽培品が逸脱したものかは意見が分かれているようです。比較的珍しい樹木で、大阪府藤井寺市の道明寺、兵庫県香住町、山口県の牛島などではモクゲンジが府や県、町の天然記念物に指定されているそうです。

６月中旬から７月初旬にかけて枝先に穂状の花序をつけ、たくさんの黄色い花を咲かせます。花は開いた当初は全体が黄色ですが、一両日の内に中央部のふくらみが赤く色づきます。葉は奇数羽状複葉で、小葉にも粗い鋸歯（きょし）があります。木の葉のようすがセンダンという植物の葉に似ているので「センダン葉菩提樹（ぼだいじゅ）」と呼ばれることもあるそうです。本来の菩提樹とは全く別の植物。硬い種子は数珠に利用され、寺院にも好んで植えられることから、菩提樹の名前がつけられたようです。果実は 3 室の袋状で、各室に 1、2 個の種子を含みます。

モクゲンジの名前の由来はムクロジの中国名である木患子を誤ってモクゲンジにあてたため､木患子の日本語読みのモクゲンジになったと言われます。

花は黄色の染料にされたり目薬に使われたりしますが､中国では葉を煮詰めて膏薬をつくったそうです。